防雪柵の進化とともに55年　理研興業㈱

常に新しい発想で製品開発を続ける理研興業の本社社屋

創業55年を迎えて

代表取締役社長　柴尾　耕三

当社は昭和三十年の創業以来、防雪・防風対策製品の製作専業メーカーとして各種製品を開発・販売してまいりました。

厳しい時代の荒波に、柔軟な姿勢で対応し、製品の研究・開発、技術向上に間断なく取り組み今日まで堅実な成長を遂げる事ができました。

これもひとえに、各発注機関をはじめ関係方面の方々のご理解と温かいご支援のお陰であり、心から厚くお礼申し上げます。

技術開発・製品開発に力を注ぎ、高度な技術力を駆使した高精度・高性能な製品の提供を実現し、仮設タイプの防雪柵から始まり高性能防雪柵・自動収納型の高機能防雪柵へと、様々な要望に応える事により、発注機関をはじめ多くの方々に高い評価を頂いて参りました。

創業五十五年の節目を迎え、公共事業に携わる立場から環境対策の取組、「新製品は現場から生まれる」という発想、創造性を豊かにして社会のニーズに応え、単なる防雪柵を提供するだけではなく、関係機関の方々に環境にも配慮した、新たな製品・技術を提案し、雪庇防止柵・落雪防護柵・越波防止柵等で新たな需要を開拓し、更なる安全で円滑な雪害対策の一端を担って参りたいと思います。

これまでの皆様のご厚情ご支援に心より感謝申し上げますとともに、今後ともご助力賜りますようお願い申し上げます。

雪国の道路を支え半世紀余

防雪柵診断システムを提案

防雪柵・防風柵の専業メーカーの理研興業㈱（小樽、柴尾耕三社長）が創業五十五年を迎えた。雪国の安全で円滑な道路環境の発展を支えて五十五年。技術開発・製品開発に投資を惜しまず、高性能・高精度な製品とともに、経済性・安全性に優れた防雪施設への転換を進める、防雪柵診断システムを開発した。

同社は、理化学研究所を母体とした新理研工業㈱および理研商事㈱の北海道営業所として昭和二十四年十二月に発足。理研系各社製品の販売を担当、順調に推移してきたが、同三十年十月、新理研工業が大同製鋼㈱と合併するのを機に営業所閉鎖の運びとなった。

しかし、取引先などからの存続要望を受け、三十年十一月十一日、小樽に本社を置く理研興業㈱が誕生。三十六年に世界六ヵ国で特許取得した「理研クロスボールト」を開発し、大反響を受けた。

三十八年に業務拡大に伴い札幌に本社を移転。その後、業界で初めて鋼材で防雪柵を開発し、特許を取得した。さらに防雪柵の改良・開発に取り組み「自立型主柱折りたたみ式吹払柵」「完全収納式防雪柵」、業界で初の「連動昇降型防雪柵」など次々とヒット商品開発に成功し、過酷な雪国のライフライン確保に貢献。平成七年には本社を再び小樽市に移転し、新社屋落成・最新地吹雪再現風洞実験室・製品検査場を完成させた。

近年では、カラマツ間伐材を使用した「木製高性能防雪柵」やNETISに登録された「高性能防雪柵（誘導板付忍び返し柵）」「自動収納型高機能防雪柵」「既設防雪柵対応型自動建込・収納工法」「鋼管杭への主柱接続工法『ZIG』」など優れた製品や技術を開発。

また、長年蓄積してきた「気象観測のデーター」の販売や、更新時期の把握の困難な防雪柵を同社が開発した「防雪柵診断システム」により既設柵の延命化を目的とした、現地による補修方法の確立など製品のみならず、次々と新たな試みに挑戦し続けている。

現在も数件の新製品開発の取組を関係機関とスタートし、来年には発表する予定。

理研興業のこの姿勢が続く限り、今後も発展し続けていくであろう。

お祝いの言葉

理研興業㈱の風雪五十五年の研鑽が、北国の道路交通の安全を支え続けて、今日の盛業にまで発展されたことを大慶に存じます。

昭和三十年に大学の土木工学科を卒業した私共は、PSコンクリートを最初に大学で習った学年です。

札幌千歳間の通称弾丸道路（今の国道三六号）が、日本で最初の自動車道路仕様の道として働き出したのもその頃です。風雪との戦いを、まさに、戦後日本の道路技術の立ち上がりと共に始められた理研興業の先見の明に驚き、その後の真摯な努力発展に敬意を表して、五十五年の歴史を寿ぎたいと思います。

（独法）北海道立総合研究機構理事長、元北海道大学総長、元土木学会会長、工学博士
丹保憲仁氏

『北海道浪漫鉄道』を書いたのは二十数年前のことになる。明治三十年前後、鉄道敷設部長として田辺朔郎が、北海道一千マイル幹線鉄道の実地踏査を行った話を物語にまとめたものだが、函樽ルート（現・函館本線）踏査中のニセコ辺りで部下に〝雪垣〟について教えるくだりがある。

風が来る側に柱を立て、その間に横棒を渡す。これにむしろを張り、地面から二尺（約六〇センチ）隙間をあけることで、レール上に積もった雪を吹き飛ばすのだ。吹雪も集中的に来るところと来ないところがある、だから〝雪垣〟は全てにつける必要はない。風の通る所だけに立てればいい。

この当時道路さえ未整備の北海道で、〝雪垣〟は発想さえなかったといっていい。田辺は京都で琵琶湖疎水建設の工事主任在職中にアメリカで開発された水力発電を視察している。おそらくその時に乗った カナダ太平洋鉄道の車窓から、彼はそれを目にしたのであろう。

たまたま拙著を読んでくださった理研興業の柴尾社長からは、「地上から二尺あけるのは、現在も全く変わりません」とコメントいただいた。

百年余りの間に、材質はむしろから鋼製となり、積雪は地上から吹き上げられ、道路をまたいで遥か彼方へ飛ばされていく。夏場には景観を損ねないように、折りたたまれて道路脇で小さくなっている。

全て降雪や地吹雪による災害と事故からドライバーを守る為、創意工夫を重ねてきた賜物である。その間〝雪垣〟という情緒的な名は消え、「防雪柵」と表現は変わったが……。

今年、理研興業は創立五十五年、この道一筋真摯なものづくりにますます磨きがかかることを期待して、半世紀と五年の歴史にエールとお祝詞をお贈り申しあげます。

特定非営利活動法人 風土工学デザイン研究所理事長、作家
田村喜子氏

貴社は我が国の代表的防雪柵メーカーとして五十五年の長きにわたって、雪国の道路の安全確保に貢献してこられました。雪をコントロールすることは技術であり、防雪柵は技術に基づく高度な技術製品であるべきであります。

その点貴社は、単に防雪柵を製造するだけではなく、常により良い防雪柵を求めた技術開発を精力的に続けてこられました。それが貴社の製品の信頼につながっていることと思われます。今後とも、この方針を維持され、より良い製品を提供し続けていただきたいと願っております。

東北大学名誉教授、工学博士
三浦　尚氏

理研興業㈱の創業五十五周年おめでとうございます。

祝　創業55年　■五十音順■

今井金商株式会社
代表取締役社長　今井　國雄
札幌市中央区南二条西二丁目一三
電話（〇一一）二五一―一一五八番

AGC
AGCマテックス株式会社
代表取締役社長　秋山　修
東京都中央区日本橋小伝馬町一七―一二
電話（〇三）3660―〇三一七番

KMAC
ケイ・マック株式会社
代表取締役　中島　寛明
大阪市淀川区田川二丁目六―八
電話（〇六）6300―一〇四七番

KOSHO
株式会社興商
代表取締役　岸梅　憲正
北見市西三輪五丁目三―一二
電話（〇一五七）36―八四九〇番

株式会社コスモス
代表取締役　上田　光夫
標津郡標津町字川北九六―五
電話（〇一五三八）5―二二二二番

三協マテリアル株式会社
札幌営業所
札幌市白石区流通センター四丁目四―五八
電話（〇一一）865―〇八九三番

JFE
JFE建材株式会社
代表取締役社長　大出　直文
東京都中央区日本橋堀留町一―一〇―一五
電話（〇三）5644―一一二七二番

新日本製鐵株式会社
北海道支店
支店長　遠藤　善哉
札幌市中央区北二条西四丁目
電話（〇一一）222―八二六一番

Taniwaki
株式会社タニワキ
代表取締役社長　谷脇　正人
帯広市西一九条南一丁目四―一二
電話（〇一五五）34―六一一一番

TKK
トーヨーコーケン株式会社
代表取締役社長　小島　康夫
東京都江東区東砂八丁目一九―二〇
電話（〇三）5867―三一一六二番

株式会社中鉢輸
代表取締役　中鉢　一秀
札幌市白石区北郷三条二丁目二―一
電話（〇一一）879―五一〇一番

日新製鋼株式会社
北海道支店
支店長　吉本　隆
札幌市中央区大通西七丁目一―一
電話（〇一一）241―七五二一四番

NIHON TEPPAN
日本鐵板株式会社
北海道野善支店
支店長　鷹野　雄
札幌市中央区北三条西四丁目一
電話（〇一一）261―五五四一番

MARUKIN
株式会社マルキンサトー
代表取締役社長　佐藤　隆
札幌市中央区南三条東三丁目一八
電話（〇一一）261―八二〇六番

三井物産スチール株式会社
北海道支店
支店長　森本　俊昭
札幌市中央区大通西一〇丁目四―一七
電話（〇一一）213―三〇九五番

MINORI
稔造機株式会社
代表取締役　古林　勤
北広島市共栄一四六番地二
電話（〇一一）372―三五五八番

Metal One
株式会社メタルワン建材
代表取締役　大西　哲也
東京都千代田区丸の内一丁目八―一
電話（〇三）6895―七七七七番

RIKEN
株式会社理研油圧興業
代表取締役社長　濱田　俊司
札幌市北区屯田九条二丁目一―二〇
電話（〇一一）772―八二八〇番